

野研びより

昆虫編 2号

野外生物生態調査研究部 昆虫班

2015 年5月



図1. コガタノゲンゴロウ²⁾

Cybister tripunctatus

甲虫目 ゲンゴロウ科 ゲンゴロウ亜科



図2. 清武川で撮影されたコガタノゲンゴロウ

本州、四国、九州、南西諸島に分布する。体長 24 - 29mm。ナミゲンゴロウと同様、前胸背板・上翅に黄色の縁取りがあり、腹面は全体に黒色。水生植物の多いため池、水田、用水路などの止水域をおもな生息地としている。

かつては日本各地の平地から低山地の水田、放棄水田、池沼などで普通に見られ、特に平野部に多く生息していたようであるが、農薬の大量使用と時期をほぼ同じくして多くの地域で絶滅し、特に本州では見かける機会が非常にまれになった。農薬の影響をより受けやすい種と考えられる。全国的に減少傾向が著しく、環境省のレッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。但し、南九州や南西諸島の水田（放棄されたものを含む）などの水域では、比較的多くみられる場所も残っている。鳥取県と愛媛県では条例により採集禁止となっている。宮崎大学周辺では、こどもの国や清武川で目撃例がある。

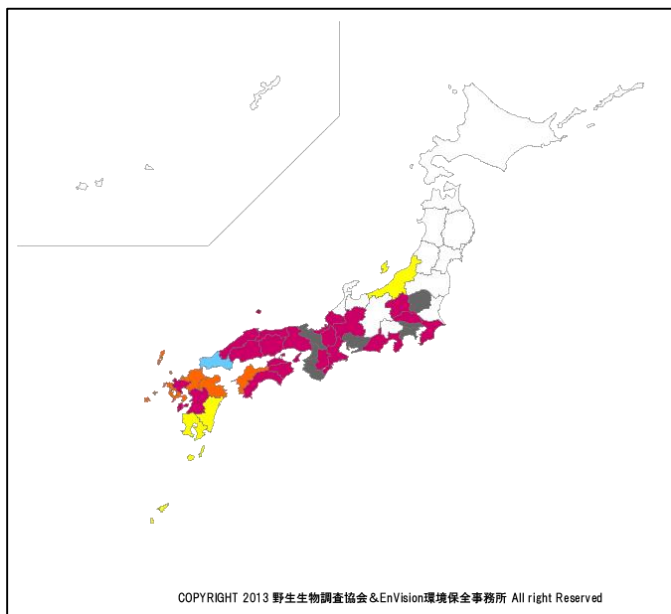


図3. 県別のレッドリスト¹⁾ コガタノゲンゴロウ

黒色：絶滅
 赤紫色：絶滅危惧Ⅰ類
 オレンジ色：絶滅危惧Ⅱ類
 黄色：準絶滅危惧
 水色：情報不足

図3の通り、コガタノゲンゴロウは本州を中心に各地で激滅していることが分かる。絶滅が6府県、絶滅危惧Ⅰ類が18県、絶滅危惧Ⅱ類が3県、その他は希少、要注目種となっている。昆虫の絶滅の確認は難しく、絶滅危惧Ⅰ類の県には既に絶滅した県がかなり混じっているであろう。先ほども述べたように、九州南部は生息地が多数残っているが、それでも年々減少しており楽観視できない。



図4. マルコガタノゲンゴロウ²⁾
Cybister lewisianus
 甲虫目 ゲンゴロウ科 ゲンゴロウ亜科



図5. コガタノゲンゴロウ²⁾とマルコガタノゲンゴロウ²⁾の見分け方
 左がコガタノゲンゴロウ 右がマルコガタノゲンゴロウ

本州、九州に分布する。体長 21-26mm。腹面は全体的に黄色。水生植物の生えた大きな池沼に生息するが、非常にまれでコガタノゲンゴロウより遥かに少ない。九州で確実な生息地は佐賀県のみ。環境省のレッドリストで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定され、2011年4月11日より採取、販売が法律で禁止されている。コガタノゲンゴロウとマルコガタノゲンゴロウは腹面の色を見れば簡単に見分けがつく。

引用文献

- 1) 日本のレッドデータ検索システム <http://www.jpnrdp.com/search.php?mode=map&q=07170111718>
- 2) 湘南アクアリウム <http://www.shonan-aqa.jp/>